



# 白馬会議2011

長野県白馬に生まれる  
「ダボス会議空間」へ  
ようこそ!

**統一テーマ** “再起動せよ！ニッポン。”—「3・11」後の課題とシナリオを問う

「西のダボス、東の白馬」……白馬会議は学会でも、財界セミナーでも、評論家やジャーナリストだけの集まりでもない。この会議の魅力は一人一人の知的な個人がそれぞれの生きざまやバックグラウンド、問題意識を持って集まり、白馬の大自然の中で心ゆくまで議論し合うところにある。といって一過性の会議イベントでもない。創刊60年にならんとする『世界経済評論』誌の新年号に、毎年、詳細な討議記録が刻印されていく壮大な「知の渦」の創造プロセスでもある。



シェラリゾート白馬

**開催期間** 2011年11月26日(土)～27日(日)

**開催会場** 長野県白馬村「シェラリゾート白馬」 <http://hakuba.sierra.ne.jp/welcome.html>  
【東京駅からの所要時間】約2時間半：長野新幹線で長野入りし、オリンピックロードを走る白馬直行バスを利用。

**主催** 社団法人 世界経済研究協会 **協賛** 長野銀行

**後援** 長野県・長野県経営者協会

【参加定員】100名（参加者が50名を超える場合、宿泊のみシェラリゾート白馬に隣接するホテルとなります。）

【参加費用】1名2万8千円（1泊4食の滞在費、会議運営費、資料代等を含む。）

【参加申込方法】「白馬会議参加希望」と明示、氏名・所属及び連絡先の住所、TEL&FAX番号を記し、メール：[forum@sekaikeizai.or.jp](mailto:forum@sekaikeizai.or.jp) または Fax：03-6423-0056までお送り下さい。折り返し、詳細プログラム・申込書及び参加費請求書をお送りします。

【申込締切】定員になり次第、締め切ります。

【問い合わせ】

〒107-0052 東京都港区赤坂5丁目2-41 赤坂サンクビル203  
(社)世界経済研究協会

TEL：03-6423-0057 FAX：03-6423-0056

E-mail：[forum@sekaikeizai.or.jp](mailto:forum@sekaikeizai.or.jp)



白馬会議2010 討議会場風景



◎(社)世界経済研究協会 (Association for World Economic Studies)◎ 「産官学一体となって世界経済の中の日本の針路を考える」を活動理念に1963年創設。「産」では日本経済をリードする有力企業を法人会員として擁し、「官」では五省庁(外務・財務・経産・農水・内閣)の共管を受け、「学」では日本国際経済学会・国際ビジネス研究学会等、関係諸学会との交流を重ねている。1953年創刊の『世界経済評論』誌の発行(隔月)、東京で年5回開催する「世界経済評論フォーラム」そして毎年秋開催の「白馬会議」によって形成される「知のトライアングル」をベースに意欲的な情報創造&発信を展開している。  
会長 池間誠・一橋大学名誉教授 専務理事 市川周 URL：<http://www.sekaikeizai.or.jp>

# 再起動せよ！ニッポン。—「3・11」後の課題とシナリオを問う—

どうもこの国はおかしい。本来のパワーが出ない。そんなイライラと自己不信の中で「失われた20年」が過ぎ去ろうとしていた最中、私たち日本人は「3・11」という強烈な“シャットダウン”に襲われた。とはいうもの失われたGDPはせいぜい5%。8割を消失した太平洋戦争、3割の損害を出した関東大震災とは違う。だから簡単に再起動出来るとたかをくくってはいけない。問われているのは、この国の繁栄のボリュームではなく、その体質である。東日本大震災を起こした大ナマズが太平洋ベルト沿岸を南下中という地震学者達の警告を待つまでもなく、今、我々は日本列島に築き上げた文明の将来を真剣に問い直してみる必要がある。白馬会議2011はこの問題に焦点を当て、以下、「4つのサブテーマ」を設定しました。

## 【サブテーマセッション】

「4つのサブテーマ」（日本政治・グローバル経済・日本製造業・日本エネルギー政策）に関し、それぞれ60分間の基調報告と30分間のコメント及びQ&Aタイムを設けます。

### サブテーマⅠ 「日本政治の今後—「戦後」から「災後」へ」

【基調報告者】御厨 貴 氏（東日本大震災復興構想会議議長代理・東大教授）

プロフィール●東京大学法学部卒業。政策研究大学院大学教授を経て東京大学先端科学技術研究センター教授。専門は日本政治史。2011年4月に発足した東日本大震災復興構想会議の議長代理としての活動を通じ、「戦後」が終わり「災後」が始まったことを洞察し提起する。与党民主党対野党自民党という「戦後」的対立は全く意味をなさず、「災後政治」を目指した大胆な発想の転換と、既存の法的しほりからの解放を断行し、新たな“国土創造”という大いなる課題に立ちむかうことこそ、「災後政治」の最優先テーマであるとする。その一方で、「災後」の日本人の中に広がる現行政治への脱力感にも強い危惧を持つ。

### サブテーマⅡ 「グローバル経済の今後 世界構造変動のダイナミクス」

【基調報告者】武者 陵司 氏（武者リサーチ代表）

プロフィール●横浜国立大学経済学部卒。我が国の代表的投資ストラテジスト。大和証券、大和総研からドイツ証券副会長兼チーフ・インベストメント・アドバイザーを経て、2009年、(株)武者リサーチを設立。「論理一貫」「独立不羈」「歴史的国際的視野」をモットーに経済・金融市場分析及び中長期予測を広く発信。同社ホームページで自身の過去20年の予測と結果の履歴を堂々と公表している。近著『「失われた20年」の終わり』では、この20年を「失われた20年」ではなく、新たな離陸を開始するために「日本を鍛えた20年」とし、今後数年にわたって日本株式市場は、かつてないほど高い可能性を秘めた時期に入っていくと大胆に「予測」している。

### サブテーマⅢ 「日本製造業の今後—ものづくり大国への復権」

【基調報告者】黒田 篤郎 氏（経済産業省製造産業局審議官）

プロフィール●東京大学経済学部卒。通産省に入省。『通商白書』の執筆、JETROバンコクセンター所長、国際経済課長等、主に通商政策局畑を歩いて2007年には我が国EPA（経済連携協定）交渉を陣頭指揮する通商交渉官に就任。国際協力機構（JICA）理事に就任後、本省に復帰。今度は国内製造業支援の司令塔たる製造産業局の審議官として、日本製造業が直面するまさに「3・11」後の逆風構造の中で、税制改正や対外経済連携促進による国内立地環境の再強化、インフラ事業支援等を通じた海外需要の開拓、レアアースに象徴される輸入原材料調達リスクの軽減、次世代産業の育成等々、「ものづくり大国・ニッポン」の復権を目指す経済産業省のビジョン構築型政策リーダーとして活躍中。

### サブテーマⅣ 「日本エネルギー政策の今後—脱原発の理想と現実」

【基調報告者】飯田 哲也 氏（NPO法人環境エネルギー政策研究所所長）

プロフィール●京都大学原子核工学専攻修了。神戸製鋼、電力中央研究所を経て、2000年、地球温暖化対策やエネルギー問題に取り組む環境活動家や専門家と共に、持続可能なエネルギー政策の実現を目的とするNPO法人環境エネルギー政策研究所を設立。脱原発を明確に志向し、自然エネルギーの活用や省エネルギーの推進に向けた国政への政策提言、地方自治体へのアドバイス、国際会議やシンポジウムの主催など、幅広い分野で活動を行っている。欧米、アジア各国とのネットワークキングを活用した、海外情報の紹介、人的交流など、日本の窓口としての役割も果たしている他、市民ファンドを活用した市民風車、太陽光発電事業なども発案し、事業化している。

## 【クロステーマセッション】

「4つのサブテーマ」の基調報告者を中心に、各サブテーマをクロスさせる形でパネルディスカッションを展開し、2011年の統一テーマ：“再起動せよ！ニッポン。—「3・11」後の課題とシナリオを問う—”に対する討議総括を行います。  
※白馬会議2011の討議報告は『世界経済評論』2012年1-2月号「白馬会議特集」に掲載されます。

## タイムテーブル

11月26日(土)	12:30~13:45	オープニングランチ&オリエンテーション
	14:00~15:30	<サブテーマⅠセッション> 「日本政治の今後—「戦後」から「災後」へ」
	15:45~17:15	<サブテーマⅡセッション> 「グローバル経済の今後—世界構造変動のダイナミクス」
	17:30~18:00	カクテルレセプション
	18:00~20:00	テーブルディナー
11月27日(日)	07:00~	朝食
	08:15~09:45	<サブテーマⅢセッション> 「日本製造業の今後—ものづくり大国への復権」
	09:55~11:25	<サブテーマⅣセッション> 「日本エネルギー政策の今後—脱原発の理想と現実」
	11:30~13:00	<クロステーマセッション> 統一テーマに関する討議総括
	13:15~14:00	クロージングランチ&閉会